

# 審判長注意事項

平成29年度より実施する

1. 試合規則は、大会規則及びグラウンドルールで、特に決められた以外は本年度の公認野球規則による。
2. 選手の交代の際は、必ず球審に申し出ること。特に2名以上の交代には注意すること。
3. 抗議の出来るものは、監督又は主将と当該プレーヤーとする。
4. 試合球の交換は、審判員の認めたときのみに限る。
5. 試合はスピーディーに行い、出来るだけ無駄な時間を省くこと。特に作為的なタイムは認めない。
6. 攻守の交代は、敏速に駆け足で行うこと。
7. 打者席には、速やかに入り球審への挨拶は無用である。尚、みだりに打者席を外すことを禁止する。【ルール5. 04b】
8. 2回目以降の投手の投球練習は4球迄とし、投手交代の際の投球数は公式ルール【5. 07b】で決められた通り、1分間・8球迄とする。
9. 次打者は、自席側を使用し打席に着く際、不用のバットをグラウンドに置かぬこと。投手も実行すること。
10. 投手は必ずプレートについて、捕手のサインを見ること。
11. ボール・ストライク・アウト・セーフ・フェア・ファウルボール及びハーフスイング等判定に対する抗議は許されない【ルール8. 02a】
12. 守備側からのタイムの要求で、試合が停止されたときは、投手は捕手を相手に投球練習することは許されない。
13. 接合バット及び公認された金属製バットの使用は差し支えない。尚、〔素振りリング〕並びに〔鉄製パイプ〕等の持ち込みを禁止する。
14. 捕手は必ず公認マスク、レガーズ、プロテクター、捕手用ヘルメット及びファウルカップを着用し、打者、次打者、走者、ベースコーチも、公認ヘルメットを着帽すること。
15. 投手が手首にリストバンド、サポーター等を使用することを禁止する。(手首の負傷で包帯などを巻くことは許される)尚、プレーヤーが塁上で、腰を下ろすことを禁止する。
16. 足を高く上げてのスライディング及び空タッグを禁止する。もし、現実に関これが妨害となった場合は、ペナルティを適用する。
17. 試合のスピード化をはかるため、コーティシーランナーを認める。(当該プレーヤー9人の打順の前任者。但し、投手及び捕手を除く)
18. サングラスは、大会本部又は当該審判員に申し出て使用出来る。但し、ミラーレンズ(反射式)は使用出来ない。サングラスを帽子のひさしの上にかける事は絶対に禁止する。